

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 9 日作成)

小委員会名	次世代排水システム刊行小委員会		主 査 名：坂上 恭助 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：佐土原 聡
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	本小委員会は、建築設備運営委員会傘下の次世代排水システム小委員会として、2009 年度より検討を続け、執筆を行ってきた「(仮称) 機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」を AIJES として完成・刊行することを目的とする。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：坂上恭助 (明治大学)、 幹事：細田幸宏 (ブリヂストン)、松下幸之助 (TOTO) 古賀誉章 (東京大学)、高津靖夫 (芝工業)、小寺定典 (UR 都市機構)、 早川和男 (戸田建設)、谷信幸 (アルモ設計)、須賀良平 (クボタシーアイ)、 光永威彦 (山下設計)、摺木剛 (丸一)、白井政夫 (ジェス)、 山本慈朗 (日本管材センター)、石村修一 (旭化成ホームズ)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2014 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 2 回次世代排水システムシンポジウム 『『機械・サイホン排水システム設計ガイドライン(AIJES)』刊行に向けて』 (次世代排水システム小委員会との共催) 参加者数 68 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	・設計ガイドライン草稿を策定する。 →達成度 100%
委員会活動の問題点 ・課題	・検討に、建築計画研究者・建築意匠設計者の参画があると、よりよかった。

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会の主目的である、設計ガイドライン策定については、昨年度までの次世代排水システム小委員会の2つのWGが作業していたものを引継ぎ、本小委員会が主導し、次世代排水システム小委員会のメンバーの助言を得ながら、一体で策定作業を行った。</p> <p>上部運営委員会の任期の関係で、1年の設置期間となるが、順調に草稿をまとめ、12月4日にはAIJESの要件である刊行に向けたシンポジウムを開催し、ほぼ定員の参加者を得ることができた。ガイドラインに対する意見も概ね好意的で、大きな修正点はなかった。そこで、2月に最終草稿を完成させ、3月には外部査読者に査読を委託する。これで、来年度の刊行への見通しをつけることができた。</p> <p>来年度も、運営委員会の更新に合わせて、新刊行小委員会を設置する予定で、来年度での刊行を目指して、活動を進めていく所存である。</p> <p>以上、総合して、当小委員会の目的である設計ガイドラインづくりについては順調に目標を達成しているもので、総合的な目標達成度は100%とし、総合評価はAと自己評価した。</p> <p>以上</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。